



第67号 令和4年2月28日
発行所 宮城県伊具高等学校 同窓会 宮城県伊具郡丸森町雁歌51 TEL 0224-72-2020 URL http://www.igukou.com 発行責任者 加藤弘勝
印刷所 佐藤印刷株式会社

令和四年を迎えて

伊具高校同窓会
会長 湯村 勇



伊具高校同窓会の皆様方、時期が遅れましたが、令和四年の新春を迎え益々ご健勝のこととお慶び申し上げます。

日ごろ、本同窓会事業に對しご理解とご支援を賜り厚く御礼を申し上げます。

私は昨年に開かれた総会で同窓会会長に選任され、以来、早いもので約一年が過ぎようとしております。その後、会員の皆さんと親しいひとときを過ごす機会をつくろうと思っておりますが、二年ほど前から新型コロナウイルス感染症が蔓延し、その夢の実現が不可能になってしまいました。誠に残念でなりません。一刻も早い収束を願うもので

す。

さて、私はこの新年に当たり、新春の朝日に家族の健康と併せて本伊具高校のご隆盛をお祈り申し上げます。したが、これほど緊張したことはありませんでした。同窓会会長の責任の重さを痛感したからです。

ここで、私が同窓会会長に就いてから感じていることを思うままに述べさせていただきます。伊具高校と同窓会の隆盛に結び付けたいと願いました。

二年ほど前から感染拡大が続いている新型コロナウイルス感染症により、本校の教育を始め、同窓会の行事、さらには生徒たちの部活動にも大きな支障をきた

していることは誠に残念でなりません。そして昨年末にはオミクロン株という新たな脅威も現れ、世界の人々に大きな心配をかけております。今年はいくつものことが収束し、明るい笑顔で多くの行事が行われるように祈るものです。

本校は2020年に創立百周年を迎え、生徒たちは勿論、同窓会員、教職員、地元関係者とその趣旨を自覚し合いました。特に生徒たちの心には長い伝統と歴史が刻まれ、これからの行動に大きな希望が輝いているに違いありません。

また、他に心に刻まれていることがあります。令和元年に発生した台風十九号により本校の教育設備も大きな被害を受けました。しかし、教職員と生徒らが一体となり被害を最小限に食い止めたり、不撓不屈の精神で災害からの復旧に取り組んだことは母校の記録として永く刻まれることでしょう。併せて、生徒達は暇を見つけては被害者宅に救助に向かい汗を流しました。ボランティアです。暗く沈んだ丸森町に明るい灯

がともりほのぼのとした行動にみんなの心は温かくなったことでしょう。地域とともに歩む伊具高校は不滅です。

今やどの地域でも課題となるのが少子高齢化。生徒の数は減少し高校の再編は避けられません。そこで提案を。

仙南地方に誘致した工場はいま、工業技術系の社員が足りないと言われております。雇用したい会社のために技術者を育てられるように伊具高生のための寄宿舎を建設してはどうでしょうか。遠くから生徒が当町に移住する気がするのです。関係者に是非とも考えて頂きたいと思います。

伊具高校の校訓は「質実剛健」「穩健着実」です。前者は、飾りつ気なくまじめで、意志が強くしつかりしていること。後者は、学校の生活態度が穏やかで、落ち着いており軽率でないことです。

平成十一年度より総合学科に学科改編され、現在は農学（農業）、機械（工業）、福祉（福祉・家庭）、情報（商業）の四系列が設置さ

れ、それぞれ充実した教育課程を展開しています。また、学校で毎月発行する学校通信「阿武隈川は洋々と」は角田市のご配慮により角田市内全家庭に回覧されており好評を得ております。

余談になりますが、伊具高校の校歌は古関裕而先生が作曲、白鳥省吾先生が作詞しています。古関先生は昭和を代表する作曲家で最近様々な面で高く評価されておられます。

阿武隈川は洋々と岸に栄える丸森に文化の光さきかけて 伊具高校の輝けば 清き窓べに鳥もなぐ…。

軽やかで若人が未来に伸びるようなメロディー。先生のお気持ちを感じ、笑顔で高らかに歌いたいものです。

ところで、この文、取り留めのないものになってしまいました。思うままにまとめて書きましたが、読取りの上手な皆様方に甘えてこの辺で結びとさせていただきます。

皆様のご健勝と本校のご隆盛をご祈念申し上げます。



地域の県立高校として

校長

小野 正美

同窓生の皆さまには、日ごろより本校の教育活動に対しまして深いご理解とご支援を賜り、心より感謝申し上げます。昨年度の創立百周年記念式典開催にあたりましては、皆さまより絶大なるご協力とご支援を頂戴し、百年という母校の大きな節目を厳かに祝うことができました。重ねて衷心より感謝申し上げます。今年度四月にこの歴史と伝統を誇る宮城県伊具高等学校に着任し間もなく一年となります。同窓会の皆さまには温かく迎えていただき、本当にありがとうございます。今年度もコロナ禍は続き、同窓会の活動も制限を受けましたが、夏の総会を行うことができ、学校の近況や生徒の活躍等について報告させていただきました。貴重なご意見をお伺いすることができました。改めてまして御礼申し上げます。

さて、今年度は61名の入学

生を迎え、全校生徒189名で、本校百一年目の新たなスタートを切りました。今年度は重点目標として「(1)開かれた学校づくりと特色ある学校づくりの推進と広報活動の充実 (2) 主体的・対話的で深い学びにつながる授業力の向上と基礎学力の定着、ICT機器の利活用 (3) 基本的な生活習慣やマナーの定着指導と活気ある学校づくりの推進 (4) 希望進路100%達成に向けた組織的な取組 (5) 清掃指導の徹底と心身の健康管理の推進 (6) 4系列の特長ある教育活動の推進と地域連携の推進 (7) 学校安全の再確認と生徒・保護者への周知」を掲げ、これまで取り組んで参りました。年度末を迎え、それぞれの目標に対する達成度等の振り返りも行っておりますが、学校評価や授業評価の結果がほぼ全ての項目で前年度を上回る結果であったことなどか

らも、どの目標も想定以上のレベルで行うことができたと分析しております。これは本校生徒の熱心な取り組みと共に、先生方の教育への情熱が為し得た結果であり、校長としてこれほど嬉しいことはありません。

学校の取り組みや生徒の活躍につきまして学校通信「阿武隈川は洋々と」や「雁歌学報」、本校HP等でご報告させていただいておりますが、今年度もコロナ禍で我慢を強いられながらも、生徒達は多くの成果をあげてくれました。特に地域連携の取り組みはここ数年で充実し、認知度も上がっており、今年度も農学系列の棚田プロジェクトや花のたすきプロジェクト、機械系列の伊具高の力プロジェクト、情報系列の丸森のおべんとうプロジェクト、福祉系列の家庭クラブ委員による、防災や避難に関する丸森町との連携などは新聞、ニュース等に取り上げられ、全国から本校生徒や、保護者の方にも賞賛や謝辞をいただくこともできました。

今年度は部活動の活性化も掲げ、コロナ禍ではありましたが各運動部・文化部とも活

発に活動して参りました。総体やコンクール等での上位大会出場や入賞など目に見える結果と共に、ひたむきに一生懸命取り組む姿が感動を残してくれました。また、各系列の学習の一環として参加している大会でも成果を残しました。農学系列の生徒は家畜審査競技会において団体、個人ともに最優秀賞を獲得し、来年度5年に一度開催される全国大会への切符を手に入れます。

ところで、地域の子供の数の減少もあり、本校の入学者数も本当に残念ながら減少を続けております。上述のように本校の教育内容の充実度や在校生・保護者の満足度は増しており、入学した生徒にとつては本当によい学校なのですが、せっかくのその良さが中々伝わらず、あたかも隠れた名店のような状況にあると分析しております。県立高校はその地域に住む子供たちに高校教育を授けるために置かれるものであり、そもそも高等学校は義務教育を終えた生徒により高度な、または専門的な学習の機会を提供するものです。そして同時に子供たちが思い描く将来の姿に導く責務もあります。本校はこの地区の主幹産業であった養蚕の技術を学ぶ場として生まれ、今はこの伊具・角田地区にある専門高校という役割を担っています。農業、工業、商業、福祉(家庭)を将来の道として志すこの地区の中学生が、高校段階から本校で専門教育を受けたほうが良いと考えてくれるためには、そのニーズに対応する教育内容を整備する必要があります。それには各系列の専門教育の内容の時代を見越した更なる充実と共に、より高度な学びを希望する生徒のための進学指導の仕組みも必要であり、現在準備を進めております。

地域の子供たちが自らの人生の目標をしっかりと描きながら活き活きと学び、今後大きく変化するであろう世の中を生き抜く「生きる力」を備えた生徒を育てることが、地域の県立高校としての本校の役割です。百年という歴史を築き上げてこられた同窓生の皆さまに敬意を表しますと共に、母校の発展と地域の子供たちのために、益々のご支援、ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

令和3年度総会報告

8月8日(日) 午後2時(評議員会 午後1時) 母校 2階会議室



今年度は役員改選という重要議題があることから、総会前に評議員会が開催され、総会提出議案について審議されました。総会では昨年度事業および会計決算報告、今年度事業計画および会計予算案が審議されたあと、役員改選では今年度はコロナ禍のため、参加者を本部役員および支部長に限定して行い懇親会の開催を見送りました。佐藤吉市会長(令和2年度会

- ◎協議事項
- 一 令和2年度事業・会計報告ならびに承認について
- 二 令和3年度 事業計画・予算案承認について
- 三 役員改選について
- 四 その他「イグトマ」紹介
- ◎連絡事項
- 創立百周年記念事業報告

長)の挨拶では総会がこのような形で開催される経緯が話され、続いて小野正美校長先生が学校の現状と今後の展望について説明しながら挨拶されました。協議事項に入り、始めに

令和2年度事業・会計決算報告および令和3年度事業計画・会計予算案が承認されました。続く役員改選では令和3年度の新役員が承認されました。



- 新役員**
- 会長 湯村 勇
 - 副会長 齋藤 誠
 - 目黒 喜一
 - 庄司 一郎
 - 南部 昌秀
 - 佐藤 新作
 - (事務局)
- 監事

支部だより

角田支部報告「校訓から学んで」

農蚕科14回 角田支部

鈴木 善一

令和三年の伊具高同窓会本部役員改選により角田支部長であった湯村勇さんが同窓会会長に新しく就任しました。それに伴って行われた角田支部役員改選で次のように決まりました。

- 最高顧問 賀川 博
- 支部長 湯村 勇
- 副支部長 大沼 祐(北郷)
- 小形とき子(角田)
- 伏黒 善彦(枝野)
- 酒井 章一(藤尾)
- 目黒 喜一(西根)
- 大橋かよ子
- 大槻 実
- 監事 窪田つね子
- 庶務 渡辺 勝雄
- 本郷 邦子

角田支部としては、伊具高校卒業生約2万人の三分の一くらいの同窓生がいると考えられ、7000〜8000人の同窓生がこの地で毎日毎日元気で活動している姿があると

いうことです。それを考えると本当に身の引き締まる思いです。いつも、いつもご苦労様です。感謝の念しかありません。

さて、同窓会の役割は何かと思うと、昨年度の創立100周年記念事業もコロナ禍、無事事業を終えたことに敬意を表したいと思えます。会員の方々には、募金に対し快くご協力戴いたことをこの紙面をお借りして深く、深く感謝申し上げます。

今後の支部活動は会員の融和と親睦をはかりながら伊具高に貢献できるように頑張りたいと思います。さらに伊具高校が今後も存続できるように同窓会として頑張る所存です。社会の波が大きく変わろうとしています。その対応が難しいのではないのでしょうか。それには学校の特長や社会の要請に鑑みながら生徒が興味・関心を持てる学習内容が望まれます。同窓会として

何が出来るのかは問題ですが教育内容や方針が大きく変わるものでしょう。



未来に向けて明るく楽しく興味を引き出す教育、社会で何が望まれるかを併せて工夫や研究が必要となります。伊具高においては農業、工業、商業、サービス業、医療関係など様々な分野で活躍できる教育が望まれます。

卒業される皆さん、おめでとうございます。校訓に謳っているように「質が高く、誠実で性格が良く、剛健で強い信念と意思を持って、優しく美しい人間像」を描いて下さい。それには毎日、毎日、夢と希望を高く持って学校生活を送り健康に留意して頑張ってください。

角田支部で昨年度11月に行った役員移動研修会(校歌のルーツを訪ねて築館白鳥省吾記念館・福島古関裕而記念館)のミニアルバムを作成しました。



「母校の継続にちからを」

農業科19回 小斎支部

横山博昭

皆様方には、令和4年の初春を穏やかに迎えられお喜び申し上げます。

新型コロナウイルス感染が終息したかに思えた瞬間、オミクロン株が流行！お互いに感染予防に心がけていきましよう。人間は必ず解決します。

令和3年度の卒業生65人がこのたび新たに同窓会に入会いたしました。誠にめでとうございます。

私は丸森ロータリークラブに所属し、毎年、就職予定の3年生諸君に、民間企業の立場で面接指導を行っております。今年度の就職希望先は、丸森町、角田市など仙南地域が多く県外就職者も含めほぼ内定したと聞き、人口減少の中、地元で就職し地域を守る考えの青年が多く居ることに安心したと同時に地元企業の皆様にご感謝するところです。

このような変化は「伊具高魅力化計画」の中で始めた、毎月発行の伊具高通信『阿武隈川は洋々と』を拝読し学校の様子、生徒が一生懸命努力している姿がよく分かると高

評価に表れています。さらに令和4年1月「広報まるもり」に機械系列『伊具高の力プロジェクト〜みやぎクラフトマン21事業〜』が掲載されました。まさに学校教育活動である「地域社会の将来を託すにふさわしい『生きる知恵』にあふれた人材の育成」の実績と感じ、校長先生始め各担当の先生方や職員のご指導の賜物と深く敬意と感謝を申し上げます。今後益々のご鞭撻を期待いたします。

丸森町は、令和元年東日本台風により甚大な被害を受けました。丸森町は県や国と連携して復興工事を進め早期完成を目指しています。私は、工事完成後の丸森町の「豊かで活気あるまるもり」実現の一端はコロナで落ち込んだ「観光復活」であると考えています。観光は裾野が広く「薄利多

多売」では実績はつきりとは見えません。私は同志と共に志と共



不思議な縁

普通科5回 丸森支部

小野正彦

町観光のシンボル「阿武隈川イン船下り」継続を実現すべく「知恵を集めて」努力中です。『船下り・今年中に一度は乗って見て下さい・よろしくお願ひします』

昭和二十八年四月、当時の伊具農蚕学校高等学校の普通科に入学しました。約一ヶ月前の三月八日、丸森町の田町と鳥屋で百七十六棟を焼失する大火災があった直後の事でしたので何となく慌ただしい入学であったと記憶しています。

昭和三十一年東北学院大学の英文科に入学、卒業してすぐ母校の教員として奉職、定年まで母校一筋の教員生活でした。定年後も臨時の講師として教壇に立ってきましてので通算四十年近く務めてきたことになりました。

昭和三十六年、着任日の前日三月三十一日の夜、当時の農場管理室から出火、農場関係の施設の大半が焼失しました。学校の機能は完全にストップした状態でした。一ヶ

月後ゴールデンウィーク後に漸く学園生活が正常に戻りました。

母校一筋の四十年間、数知れぬ思い出がよみがえってきます。まさに、紆余曲折、少し大げさに言えば波瀾万丈の教員生活でした。そんな中にも忘れることの出来ない思い出があります。昭和四五年の三月四日だったと記憶しています。朝から雪の降り続く日でした。当時は教員に夜間の勤務、宿直の制度があり、その日は私は宿直のため学校にいました。夜八時過ぎ、突然数人の卒業生が入ってきました。全員が野球部員でした。私の家に行ったが宿直であると言われ、学校までの4キロの道のりを和田(私の家)から走って来たというのです。(行ききはタクシーだったようでした)雪が降り続く暗くて寒い夜です。その時、家では4歳の長男がおもちゃのプレゼントにとても喜んでいました。三年間の部活動の思い出を話し合い、帰り際に「先生、最後のランニングすっか」とグラウンドに出て行きました。雪の降る暗いグラウンドで声を上げながら走り始めたのです。それは先生と教

え子ではなく人と人のつながりであり、その光景に言葉もなく胸が熱くなり涙がこぼれました。あの日から五十二年、彼らの中の一人が現在、丸森町の町長として活躍されています。そして、おもちゃをもらった当時四歳の長男は昨年の四月から母校にお世話になっていきます。不思議な縁だなと、つくづく思っている次第です。

母校は昨年、創立百周年を迎えました。昭和二十五年、創立三十周年を記念して植樹された桜、あれから七十年になり見事な大樹に成長、毎年春になると見事な花を咲かせてくれます。

3年間の思い出

農業科21回 筆甫支部

目黒忠七

農家の長男に生まれ小学校高学年時には、高校進学は伊具高校の農業科と決め、これは親も先生も一緒に



る誇りさえ感じていた。地区内には「宮城米1割増産」の看板があり、牛乳、繭、木材なども同様であった。そのような時代の昭和42年農業科21回生として入学した。

担任は、まだ熱血30代で養蚕の大槻英雄先生、副担任は新任で音楽の菅田邦穂先生であった。入学後迷うことなく陸上部に入部、思うような結果は残せなかったが三年間汗を流した。

クラス46名中42名が長男、次男が3人在籍したが何れも兄を亡くしており、1名を除き45人が俗に言われる「家督」であった。もう一人は「酪農家に養子になる」と口にし、実際に酪農家になった。

ユニークな先生方、根っ子入りの鶏と豚、校舎脇の牛舎、除北の桑園、川向農場、花田の水田、夕方遅くまでの奉仕作業、ホームプロジェクトや実物鑑定、楽しかった関西への修学旅行や校内の競技会。悔しかったのは事故で入院し校内マラソン連覇を逃し、大文化祭に参加できなかったことだが、クラスの仲間をよく見舞いに来て話してくれた。

3年次初めて「減反政策」が打ち出されて一気に就職組

が増え、わたしも21歳から48歳までサラリーマンとして働いたが、その後、絶対しないと思っていた炭焼きに従事し現在に至る。

担任の大槻先生には亡くなられる前年まで幾度となく家庭訪問をしていたが、副担任の菅田先生も4度我が家でバイオリンのコンサートをしていたが、卒業後5年過ぎた現在もお世話になっております。

高校3年間の思いを胸に、家庭菜園を楽しみながら冬期間のYouTubeでの音楽鑑賞は両恩師の影響を大きく受け、生きがいとなっております。

棚田を守る

農業18回 大張支部

大槻 光一

大張尻棚田は、平成十一年、日本の棚田百選に認定され、時も流れ二十三年も過ぎようとしており継続していく上で幾多の問題も出ております。縁あって棚田で米作りを担当して今年で十一年目となりますが、振り返ってみますと棚田は、高齢化と中心的な役割を担っておられた方が亡くなられたことで、十数年前に



存続の危機に直面した時期がありました。そんな

ときに話があり、このままでは荒廃してしまうのではないかと思います、自分で良ければと申し上げ、以来、休耕することなく作付けしております。

昨年、一昨年と、ここ二年間は伊具高等学校農学系列の生徒さんたちとの共同作業田植えから秋の収穫まで延べ六回程の実習作業を実施しました。一方、県なりわい課やよまやまカンパニーなど多くの方々

の御指導を戴き、今回二回目となる大張尻写真コンテストには多くの方々の賛同を戴き大変喜んでいただきました。昼夜を問わずカメラ片手に足を運んでいただき、時にはご苦労さんと声をかけてくれる人もあり、疲れも癒やされ、すがすがしい気持ちになり



ます。改めて丸森町大張地区にとつて大事な宝であると実感しています。

四季折々の姿を見せてくれるこの自然豊かな景観を後生に残していくため、今自分が出来る精一杯のことをやっていく事が、即ち訪れてくる方々の心安まる事につながるのだと思います今年も励んでいきたいと思う今日この頃です。

卒業して思ったこと

総合学科20回卒

佐久間 しおん

私は、去年の3月に伊具高校を卒業しました。卒業して思ったことが2つあります。1つ目は、勉強の大切さです。私は高校3年間勉学に励んできたとは言えません。そのため、テストの点数も赤点を回避するのがやっとの状態でした。今になって勉強をしておけば良かったと後悔があります。勉学に励まず遊んではかっていると将来、困るのは自分なんだということを身をもって知りました。後輩の皆さんは後悔の無いように勉学に励んで欲しいと思います。

次に2つ目は、精神面を鍛えておけば良かったということです。

とです。理由は単純で精神面が強くないと、学校生活でも社会でも生きにくいからです。自分の悪口を言っている人のことを気にするなど言われても気にする人だっていますし、メンタルが弱くすぐ落ち込む人もいます。私は、その際に友人に相談したり褒めてもらったりします。1人で悩んでいても何も解決できないのは事実です。もし友人に相談できなくても仲の良い先輩に相談していただきます。1人で悩んでいけば、悩んでる分だけ精神面が削られていくので気を付けています。

私の働いている職場には、本校の卒業生の先輩が沢山います。本校を卒業した先輩方は多方面で活躍しています。皆さんも現状に満足せず努力することを忘れないで欲しいと思います。

在学中、お世話になった先生方には、友人関係や進路関係を聞いて頂きとても感謝しています。社会に出て、気軽に相談出来る存在が当たり前のようにいたことがありがたいことだということを実感しています。ありがとうございます。

特別寄稿

母校を思う

鈴木英晴

(商業20回・金山支部)

私は昨年度まで22年間母校に勤務し、同窓会事務局を担当させていただきました。多くの会員の皆様に励ましのお言葉やご協力を賜りましたことに、深く感謝申し上げます。

新年を迎えたある日、家庭科2回卒業の目黒(旧姓木幡)喜志子先生とお話をする機会がありました。先生は併設された中学も卒業されているので、母校に5年間通われている。その後、昭和29年10月1日から同32年4月1日まで母校定時制耕野分校・大耕分校で勤務されました。



母校は学制改革により昭和

23年に高等学校となって、大内・大張・耕野・筆甫と中心校に定時制を置きます。中心校は昭和27年に廃止されますが、大張と耕野は昭和31年に統合され大耕分校になり、昭和50年にその役割を終えるまで27年間にわたって、地域に人材を送り続けました。戦後の混乱期に地域の隅々まで高等学校教育を行き渡らせようとした母校の姿勢に頭が下がります。地域に学校があるおかげで、高校に通うことができたといい方も少なくないのではないかと思います。

さて、定時制分校は小・中学校に間借りしていたのですが、時を経て筆甫・大耕分校は独立校舎を持ちます。大耕分校は31年の統合から新校舎となったのではなく、32年の移転までの1年間は引き続き大張小に間借りすることになりました。校舎は小学校校舎の西側と東の道路を挟んだ高台の空き家を利用し、他に役場支所か公民館を使用したこともあったようです。空き家は障子が破けて隙間風が中の生徒に襲いかかるというありさまで、自主的にざら紙でそれを覆ってくれた男子生徒もいたようです。分校には大張・耕野はもとより、大鷹沢から

の入学者もあり、総勢60名が自転車または徒歩で、学年によって登校日を変えて通学していました。今のように入塾路ではなく、起伏も激しい地域ですから通学の困難はいかばかりだったことでしょう。先生は男性3人、女性2人の5名で、喜志子先生は女子の家庭の他に男女の保健も担当されたということでした。家庭の授業ではとにかく裁縫をしっかりと教えたそうです。特に思い出深く話してくださいしたのは演劇のお話です。生徒自らが台本を作って分校内で演じたところ本校の先生目の前に留まり、本校でも公演し大好評でした。面白いのは劇中の夫婦が卒業後に本当の夫婦になったことだと、懐かしそうにお話ししてくださいました。

2020年はコロナの関係もあり、あまり外部で活動することがなく「このまま高校生活が終わってしまうのかな」と不安になり、あまり前向きに行動することができませんでした。しかし、2年次となった「何かに挑戦してみようかな」という気持ちになり、様々な活動に積極的に参加しました。特に印象に残っているのが農業クラブの各種大会に出場したこと。私は初めて農業クラブの家畜審査競技会肉用牛の部に参加しました。私の家は農家ではなく、肉牛は外から見るとしかありませんでした。家畜審査は各校3名の出場権があり、友人が参加するというところで、私もやってみたいと思いい挑戦しました。家畜審査は競技前に研修会があり、良い牛の見分け方の講習がありました。私は、あまり家畜とふれ

母校だより

2年 齋 藤 優 愛

全校集会での生徒代表挨拶(家畜審査競技会受賞者として)私にとって2021年は様々な挑戦という経験をして、自分に自信がついた年になりました。

合ったことがなかつたので、教わったことが新鮮に感じ、頭の中にスムーズに記憶されました。特に「良い牛はお尻と脚の形や大きさに特徴がある」と教えられ、競技ではその部分を中心に牛を見ました。家畜審査では他校の生徒も参加し、独特な緊張感の中、競技が行われました。私は、自分のやってきたことを信じ、緊張せずに平常心で競技を行うことができました。競技が終わった後、「やりきった感」があったので、特に自分の成績についてはあまり深く考えていませんでした。個人の成績発表では最後に最優秀賞で名前が呼ばれたときに「間違っていたのか名前が呼ばれたのか」と信じられず、その瞬間は実感がわきませんでした。私が家畜審査でうれしいと思ったのは、個人の賞の受賞より団体の最優秀賞を獲ったことです。伊具高の名前が呼ばれたときはみんな喜びました。



福祉系列

福祉系列を選択した生徒の多くは介護職の入り口でもある「介護職員初任者研修」の取得を目指しています。介護職を目指す生徒以外にも、少子高齢社会に対する課題への取組、身近な家族の介護や福祉について、実習を行いながら専門的な内容を学んでいます。また、福祉系列では専門教科「家庭」の授業も充実しています。将来は「保育士や幼稚園教諭になりたい」、「パティシエになりたい」と大学や短期大学、専門学校へ進学を果たした卒業生も数多くいます。自分の好きなことを「職業」につなげる学習を行っています。



体育館のレイアウト考案にアドバイスを受ける
丸森町防災訓練に参加



11月28日(日)丸森町防災訓練に参加

マナーのアドバースをいただきながら、今年度は町の防災訓練に参加しました。クラブ員は、伊具高校の体育館が避難所となった場合を想定して体育館のレイアウトを作成しました。新型コロナウイルスや感染症の方のように配慮すれば良いのか、スクリーニング検査の場所や、受付の場所はどのように配置すれば良いのか、避難される方の不安を和らげる方法はないかをアドバイスを受けながら学びました。当日は、クラブ員が考えたレイアウトをもとに体育館が準備され、段ボールベッドや防災テントの組み立て体験し高校生の活動が、地域を支える力になれるように頑張っています。

情報系列

情報系列では、地域社会で即戦力として活躍できる人材を育成しています。変化の激しい現代社会において、それに対応できるビジネスに関する知識や技術はより重要なものとなっており、商業科目の学習を通じてビジネスを理解し、実践する力を育てています。あわせて、職業人として必要な豊かな人間性、他者とコミュニケーションを図り協

働する力などを育てています。1年次では、ビジネスに関する基本的な学習とパソコンを使用した学習を中心に行います。

パソコンは一人一台使用できる環境となっており、パソコンの基本操作はもちろん、ビジネス文書作成の基本を学びます。取得できる検定は、全商珠算電卓検定普通計算部門1級、全商ビジネス文書検定3級です。

2年次になると、簿記の学習も始まります。パソコンを使用した学習は、1年次で学んだ知識を活かして、応用的なビジネス文書の作成技術を学びます。また、表計算ソフトを活用したグラフ作成・関数を利用した計算方法も学びます。取得できる検定は、全商簿記実務検定3級、全商ビジネス文書検定2級・1級、全商情報処理検定3・2級です。

3年次での学習活動は、3年間の集大成といえる内容となっています。これまで学習した知識を活かして、地域と連携しての商品開発やPRポスター・CM・ホームページの作成を行います。地域イベントのボランティア活動などにも参加し、地域に貢献する人材の育成にも力を入れています。検定試験は、2年次までに学んだ内容を活かして、生徒の目標に合わせたより高度な検定試験に挑戦します。情報系列では、今後もかけがえのない「人財」を育成するために、万全のサポートを行ってまいります。

生徒の活躍

- 令和3年度 宮城県学校農業クラブ連盟家畜審査競技会(肉牛の部) 団体 最優秀賞
- 2年 齋藤 優愛 吉田 航平
- 上村 納奈 西村 聖也
- 個人 最優秀賞
- 2年 齋藤 優愛
- 奨励賞 2年 吉田航平
- 令和3年度 日本吹奏楽指導者協会東北支部主催第30回全日本中学生高校生管打楽器ソロコンテスト 南東北大会
- 2年 吉田航平 金賞
- 令和2年度宮城県高校生溶接講習会並びに宮城県高等学校溶接技術競技大会兼高校生ものづくりコンテスト宮城県大会溶接競技部門代替大会
- 個人戦優良賞 3年 石塚 悠希
- 団体戦第3位 3年 最上 直樹
- 石塚 悠希
- 第36回宮城県管打楽器ソロコンテスト
- 2年 吉田航平 銀賞
- 第64回宮城県吹奏楽コンクール予選 第39回名取仙南地区大会
- 高等学校小編成の部 銅賞
- 令和3年度 アンサンブルコンテスト宮城県大会予選仙南地区大会
- 管楽4重奏 銀賞
- 2年 香高ひなた 渡部 花穂
- 渡邊 兆 吉田 航平
- 管打楽器5重奏 銅賞
- 2年 村上 竜也 齋藤 光琉
- 只野 友梧 菅原 大樹
- 1年 加茂 千弥
- 令和3年度宮城県学校農業クラブ連盟大会スローガンの部
- 最優秀賞 2年上村 納奈
- 丸森町大張地区「第2回沢尻棚田写真コンテスト」
- 新人賞 2年 渡邊 兆

令和3年度 宮城県学校農業クラブ連盟 プロジェクト発表大会 優秀賞

- 2年 吉田 航平 菅原 大輝
- 上村 納奈 西村 聖也
- 齋藤 優愛 渡邊 兆

令和3年度 高校総体陸上競技石巻・仙南地区予選会

- 女子走高跳 第2位
- 1年 佐藤 心椰

令和3年度 仙南地区高校新人陸上競技大会

- 女子三段跳 第1位
- 1年 佐藤 李華
- 女子走高跳 第1位
- 1年 佐藤 心椰

宮城県高等学校家庭クラブ連盟 学校家庭クラブ活動の部 優秀賞

- 2年 目黒 愛理 笠間あさひ
- 大石 真奈

編集後記

今年度もコロナ禍の影響により、同窓会総会等を縮小して開催せざるを得ませんでした。母校に足を運び、その喜びを分かち合いたかった同窓生の皆様の悔しさはいかばかりだったのかと心中をお察しいたします。しかし、同窓生の母校に対する思いは間違いなく伝わっていることとしましょう。在校生がその思いを引き継ぎ、母校の発展に寄与してくるに違いありません。時節柄、会員の皆様にはご愛顧くださいますようお願い申し上げます。今会報に寄稿していただいた同窓会会員の方々に厚く御礼申し上げて編集後記と致します。

同窓会事務局 加藤 弘勝
池田 友利
吾妻 秀男